

校長先生の初恋物語

第52話 桜の花びらのすき間から

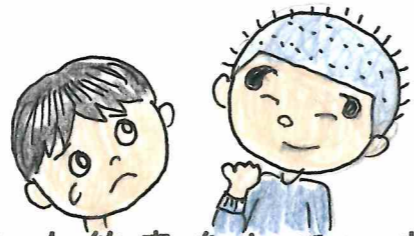
ジャイアンの事件があったのは、5年生のとちゅうのことです。冬休みになり、三学期になり、5年生が終わり、春休みになりました。もうすぐ6年生が始まります。とっくんは、この間、友達とうまくいかなくなっていました。5年生の最初のころにぎゃくもどりで、マンモス小学校は、5年生と6年生の2年間、クラス替えがありません。ですから、クラスのメンバーも変わりません。ということは、きっと6年生になっても、とっくんはみんなからきらわれたままでしょう。ですから、春休みになっても、何もわくわくしないで、毎日元氣のないとっくんのままでした。

でも、完全に一人ぼっちではなかったんです。クラスのみんなから、きらわれようとも、あの人だけはまったく変わらず接してくれました。それがちん君です。ちん君だけは、とっくんのことを心配し続けてくれました。ですから、ちん君の家にはよく遊びに行きました。

ちん君は時々、ジャイアンのあの事件のことをとっくんに聞いてきました。おしっこを言いそうになる気持ちを、いつもおさえました。それがきのこ君を守ることになります。ジャイアントとも約束をしていました。きのこ君がおしっこをもらしたということ、だれにも言わないと。

6年生になりました。担任の先生は、引き続き、によろひげ先生でした。によろひげ先生のは大好きだったので、喜びました。

4月6日に席がえをしました。もう、どの



席になろうとも、どうでもよくなっていました。今は、よしこさんのとなりにほなりたくない。ダンプさんのとなりにほなりたくないと思っていました。2人のことが好きなのかも、よく分からなくなっていました。

とっくんは、きらわれていたその間、よくクジャク小屋に行くようになりました。毎日行くので、クジャクもとっくんになついていた。寒い時は、クジャクも元氣がなくなりますが、とっくんが行くと、クジャクも喜んでいるように見えました。

その日も、とっくんは一人でクジャク小屋にいました。

チャイムが鳴って、休み時間が終わりました。クジャクに「ばいばい。」と言ったあと、とっくんは教室にもどっていきましました。校庭には桜の木があります。まだ、ももいろの花びらがついていました。ても、突然、本当に突然、強い風が吹きました。ももいろの花びらがその風によって、たくさん散っていきましました。まるで、桃色の雪が降っているようでした。あまりにもきれいで、とっくんはその大きな桜の木から落ちる、桜の花びらを見ていました。その時です。

見えたんです。大きな桜の木から散っている桃色の花びらたちの間から。UFOです。確かにちらっと見えたんです。思い出しました。

「足長君と、仲良くなったあの日。ドッジボールで対決して鼻血をだして寝転んでいたあの時も、UFOを見たっけなあ。そしてその直後に、アマーラさんが転校してきたっけなあ。」

はっとしました。「もしかして・・・」

このあと、マンモス小学校にあの人が帰ってきます。そして、とっくんを助けてくれるのです。つづく

次回予告 帰ってきたアマーラさん

